

# よいや～の風によって



令和8年6月26日(金) No.19 校長 東原 宏章

## 「原子雲の下で」

6月19日(金)、本校体育館で「被爆者の体験講話を聞く会」が開催されました。

語り部は三瀬 清一郎(みせ せいいちろう)さんでした。



三瀬さんは一昨年の8月9日に、被爆者代表として、平和公園から全世界に向けて、「平和の誓い」を読み上げた方です。

高城台小学校の体育館でも、三瀬さんは91歳とは思えないほどの張りのあるお声で、背筋を伸ばし、40分間立ったままで、全校児童に向けてお話をしてくださいました。

三瀬さんは講話の前半で、被爆当日の悲惨な体験について話してくださいました。しかし、その部分は短めに留めていらっしゃいました。

時間を費やして語ってくださったのは、被爆当時10歳だった三瀬少年が、8月9日前後に何を見て、何を思っていたかということでした。小学5年生の目線で当時の暮らしぶりや、子どもなりに考えていたことを話してくださいました。

ですから、子どもにとっては、感情移入しやすく、理解しやすいお話になっていました。低学年から中学年までの子どもたちは、目を見開き、大きくうなずきながら、お話に聞き入っていました。

高学年の子どもたちは、一生懸命メモを取りながら聞いていました。

担任教師から予め渡されていたメモ用紙が文字で埋まり、新たなメモ用紙を求める子どももいました。

三瀬さんは、この日、午前中は高城台小学校で、午後は長崎中学校で講話をされています。

原爆資料館で修学旅行生や外国からの旅行客に話をされることもあるということでした。また、オンラインで県外、海外の子どもたちにお話しすることもあるということでした。

【三瀬さんへ】

「三瀬さん、この度は御多忙の中、本校で御講話いただき、誠にありがとうございました。三瀬さんからいただいた平和への願いを、子どもたちの心にしっかりとつないでまいります。どうか、これからもお元気で、平和の尊さを語り継いでくださいますようお願い申し上げます。」

最後に子どもたちの感想（5・6年生）を抜粋して紹介します。

- 食料が少なくなったり、昼も夜も空襲警報が鳴ったりすることから、小学5年生の子どもが「日本は戦争に負けるだろう。」と気づいていたことがわかりました。
- 終戦後、食べるものがなくて、山に行って木の実をとったり、川にいった小魚をとったりして食べていたことに驚きました。
- お母さんに「おなかすいた。」と言ったら、お母さんから「じっとして、動かずにいなさい。」と言われたことにびっくりしました。
- 2学期が始まる前に、校庭に残っている人間の小さな骨を拾って回ったということを聞いて、怖いなあ、戦争は嫌だなあと思いました。
- 私は三瀬さんの話を聞いて、原爆への考え方が変わりました。これまでは、原爆はただ町を壊すだけの物と思っていましたが、被爆した人の人生も壊す物だということが分かりました。
- 今まで私は、戦争中、国民みんな、子どもでも、

日本は勝つと信じているのかと思っていました。そんなことは全然なく、負けた時に「うれしい」気持ちが出てくるのは、それまで、どれほどつらい思いをしてきたかを感じ取ることができて、当時のことがより鮮明に分かりました。

# よいや～の風によって



令和8年6月30日（火）No.20 校長 東原 宏章

## 「土砂降りの中で」

6月25日（木）、全校一斉の集団下校訓練が行われました。訓練は、高城台校区コミュニティ連絡協議会、PTA（保護者）、民生委員の皆さんの御協力のもと、実施されました。



学校を出発する前に高城台校区コミュニティ連絡協議会の三田村会長が、子どもたちに向かって訓練

の目的や注意点について話をしてくださいました。  
子どもたちは各教室で、オンラインによる三田村さんの話を真剣に聞いていました。

三田村さんのお話の後、子どもたちは集団下校班に分かれて下校しました。6年生の子どもが班の先頭と最後尾に位置しました。子どもたちは保護者の皆様や民生委員の皆様に見守られながら、雨の中、黙々と歩きました。



今回の訓練では、土砂降りになる場面もありましたが、大雨や地震、不審者対応のための訓練ですから、訓練としては適した天候だったと受け止めています。

御協力くださった PTA (保護者)の皆様、高城台校区コミュニティ連絡協議会の皆様、民生委員の皆様、雨の中の見守りや御支援、誠にありがとうございました。今回の訓練で明らかになった改善点を今後の活動に活かしていきます。



# よいや～の風によって



令和8年7月2日(木) No.21 校長 東原 宏章

## 「咲き誇れ」

6月29日(月)に高城台老人会「むつみ会」の皆さんのお世話による花苗交流会が開催されました。



本校からは6年生の子どもたちが参加しました。むつみ会の皆さんは、何日も前から花の仕入れをしたり、土作りなどの準備をしてくださったりしていまし

た。

花苗を植える前に、むつみ会の井上会長から子どもたちに向けて、花苗を移植するときのスコップの使い方などの説明がありました。



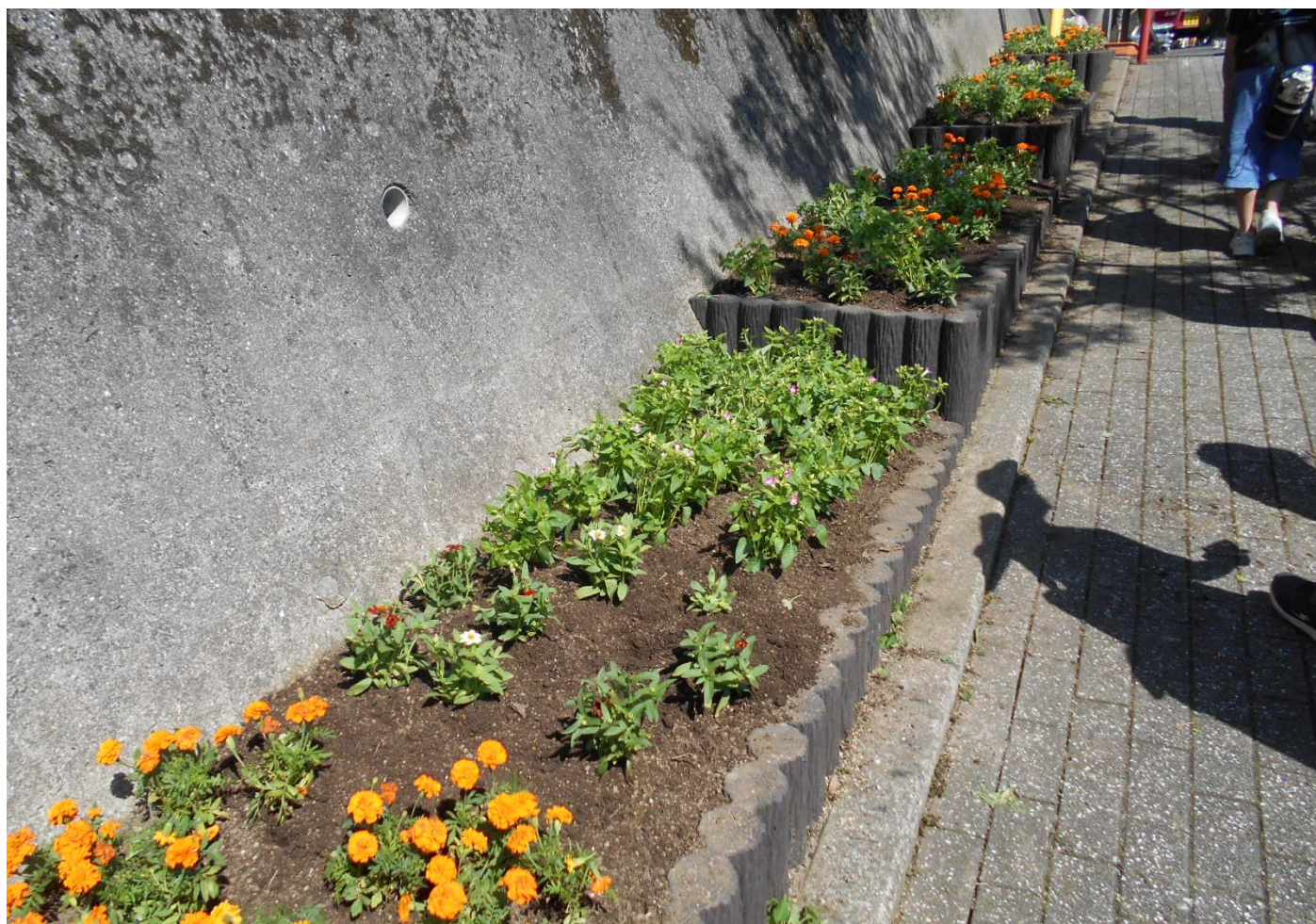
子どもたちはいくつかのグループに分かれ、むつみ会の皆さんのアドバイスを受けながら、等間隔に花苗を移植していきました。むつみ会の方は、



「時々苗を見に来て、大きく育つんだよと声をかけて  
くださいね。」  
と子どもに話していただきました。



むつみ会の皆さんは、今後数ヶ月に渡って雑草取りや水かけなどのお世話を続けてくださいます。頭が下がるばかりです。子どもたちもお世話を続けていくことでしょう。



# よいや～の風によって



令和8年7月6日(月) No.22 校長 東原 宏章

## 「交通安全教室」

7月3日(金)、本校の体育館において1年生を対象とした交通安全教室が開催されました。長崎市役所から交通安全教室のスタッフ3名が来校されました。スライドを使ってお話をしてくださったり、模擬横断歩道を渡る体験をさせてくださったりしまし



た。

子どもたちは、公園で遊んでいる小学生たちのスライドを見ながら、「ボールを追いかけて、道路に出たら危ない。」「車が通っていないか、確かめてから道路を渡ったほうがいい。」などと思い思いに自分の考えをつぶやいていました。



体育館内に設置された横断歩道を渡る体験活動では、緊張でややこわばった表情でしたが、どの子どもも、しっかりと手を挙げ、左右を確認してから横断歩道を渡ることができていました。

長崎市役所のスタッフの方は、交通安全教室を振り返りながら、次のように話してくださいました。

「1年生の皆さんは、しっかりと顔を上げて私たちの話を聞くことができていました。長い話も集中力を切らさずにうなずきながら聞いていたので、とても驚きました。」

1学期の間に聞く力も伸びた一年生の子どもたちを誇らしく思います。交通安全教室で学んだことを登下校時や日々の暮らしに活かしてほしいと願っています。

# よいや～の風にのって



令和8年7月8日（水）No.23 校長 東原 宏章

## 「感謝」

9月2日（水）から、高城台小学校の給食は「中部給食センター」で調理されたものが配送されるというシステムに変更となります。

これに伴って、本校敷地内にある給食室で調理された給食の提供は7月16日（木）で終了となります。



開校当初から18年と4か月。本校児童のために安心安全で、愛情いっぱいの給食を作り続けてくださった調理員や栄養士の皆さんに心から感謝申し上げます。



以下の画像は、7月3日（金）と7月6日（月）の給食となります。



7月3日(金)  
 コッペパン  
 牛乳  
 卵スープ  
 ミンチカツ  
 きゅうりのマリネ



7月6日(月)  
 ごはん  
 牛乳  
 うま煮  
 茎わかめのきん  
 ぴら  
 オレンジ

高城台小の給食は本当においしい!私はお店に出せる味だなあと思って食べてきました。

残りわずかですが、子どもたちにも、高城台小の給食提供に関わってきた全ての方に対して、感謝の気持ちをもって給食を食べてほしいと願っています。